

# ともに生きる コラム

対象校種 高校 大学 教員研修 対象教科 学級活動 総合

## 君が僕の息子について 教えてくれたこと

放送日:2014年8月16日 放送時間:59分



### この番組の良さ

#### ● 自閉症の当事者と家族の思いをつなぐ

東田直樹さんのエッセイ『自閉症の僕が跳びはねる理由』を読んだことをきっかけに、アイルランド在住のイギリス人作家デイヴィッド・ミッチェルさんをはじめ、自閉症の子供をもつ多くの親がわが子への理解を深めていく様子が描かれています。自閉スペクトラム症に共通する特性を理解するとともに、人が人を理解するために必要な視点について学ぶことができます。

### 番組活用のポイント

#### ● 「思考」と「表現」は違う

多くの人は、感じたことや考えたことについて、ある程度表現することができますと考えています。番組では、考えていることを簡単には表現できない東田さんが、文字盤やキーボードを使うことで自分の思考を表現する姿を紹介します。初めて東田さんを知る人は衝撃を受けるかもしれません。東田さんについて理解することから、番組に登場する自閉症の子供たち一人一人の行動にそれぞれの感情や思考が伴っていることを理解できます。

#### ● 自閉スペクトラム症の理解と支援

東田さんは、重度の自閉症にもかかわらず、環境調整により自分の考えを適切に表現することができます。番組では、東田さんには発語失行が見られること、脳のMRI検査から他人の気持ちを理解する部位に特異的な発達が見られることや、思考と表現をつなぐ脳部位に何らかの問題がある可能性が示されます。自閉症の特性はスペクトラム(連続)しているものと考えられており、通常の学級に在籍する児童生徒にも多く見られることが分かっています。東田さんのケースがすべての自閉症者に当てはまるわけではないことを前提として、自閉スペクトラム症の理解と支援について考えることができます。



執筆者 向日市立寺戸中学校 教諭 鈴木英太

対象校種 高校 大学 対象教科 学級活動 総合 福祉

## NHKスペシャル “ともに、生きる”

障害者殺傷事件 2年の記録

放送日:2018年7月21日 放送時間:49分



### この番組の良さ

#### ● “ともに、生きる”とは

19人の命が奪われ、27人が重軽傷を負った2016年の相模原市の障害者殺傷事件。事件を起こした植松被告は「意思疎通できない障害者は不幸しかもたらさない」という考えを変えていません。事件のあった津久井やまゆり園の当事者や家族の姿、事件をきっかけに社会に芽生えた変化についての2年間の記録から、本当の「共生」のあり方について考えることができます。

### 番組活用のポイント

#### ● 被告との対峙

事件直後から新聞やインターネットで発言を続けてきた社会学者で、重い障害のある娘さんをもつ最首悟さん、事件を起こした理由を問うNHKのディレクター、短大で社会福祉を学び始めた佐藤彩水さんがそれぞれ、被告と接見します。被告の考え方が決して特異なものではなく、今の私たちの社会の中に広くあるという現実とその危うさ、社会の成熟とは何かを考えさせられる内容です。

#### ● 人の「意思」と向き合う

事件後神奈川県は、障害者への支援について、本人の意思を尊重するという新たな方針を打ち出しました。事件前、人員が足りないため見守りが難しいと判断され、身体拘束が続いていた智子さんは、意思を示さなくなっていました。しかし、本人の意思を尊重する支援を受ける中で変化が現れます。どんな人にも意思があること、それを理解しようとすることの大切さを学ぶことができます。

また番組後半では、障害のある人と一緒に作り上げる日々が私たちに気付かせてくれることは何なのかを考え、話し合うことができるでしょう。